る。
 ・「健康・安全・人権・企学校教育の基盤とし、「検渉・運動・英語・思いやり/を大切にする「あいうえおの学校づくり」で児童の育成を図っている。
 本 本年度の校内研究は、「支達と高の含う児童の育成・空池・見方・伝え方の学習を通じて・1をテーマとし、体育科における主体的・対話的な学びの実践を通し生涯にわたって運動に親しむ児童の育成を図っていく。
 本 多年な人間関係を変化機会と場を保証するために、毎年、全学年学級編成計を支援し、「リーダー・インミー」のパラダイムを基に児童が新しい自分の可能性を追求し、自尊感情を高め、主体的に活動できる取組をする。
 安長食法動やプラブ活動、複割り知活動などの異学年交流を設定し、特に高学年の自己の存在意義や役割を複雑化できる機会と場を増やすことに取り組んでいる。

大項目	目標	で関係者評価の結果の概要と改善策 取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指	11元	成果 評価	これまでの取組 今後の改善策	評価	人数	
プラ		外国語専科教員と外国語教育指導員が連携を密にし、効果的に外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図ってい	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。	4	プラン2~6までの 児童・保護者向け 学校評価アンケートの	4: 5項 目全		○外国語専科教員を活用し、各学年の狙いに即した外国語指導、及び外国語活動 を実施した。高学年では、プレゼンテーシンやインタビュー活動等を行い学習活動(●各項目の成果評価が全て「3」なのに、この項目だけ「2」なのは不思議な感じがする。児童の意見を大切にし、アウトブットを重視した良い授業を行っていると感じます。
ン1 未来	コシ情力きれ会し応の身すこれであると対し、これにいいますがあるかのなす力に、とからのでいると付け、おいのなす力に、は、対して、能生これに対したのよりである。	న ం	2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 4:全教員が行った。		肯定的評価(A·B評価)の割合	て 9 0% 以上		成果を発揮する機会を設定した。今後は 英語カフェや補習等の充実に努め、コミュ ニケーション能力を高める。	Α	3	●「すすんで挨拶をする子」の指導から、コミュニケーションか 始まっていくと考えます。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、 「おおたのものづくり」を生かした体験活動 や理数授業等を実施する。	3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。	3		3: 3項		OICTは日常的に活用することができている。さらに効果的な活用方法探り、授業の充実を図る。			●音楽の授業で、ICTを使い音程を何度も復唱する等、ICTの活用が生かされていた。
社		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、I	1:60%未満であった。 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。			目以 上 9		〇人権に配慮した教育活動を基盤として 徳を中心に、他者理解を重点に取り組ん た。また、校長・生活指導主幹を中心に人	В	3	
創		CT機器を活用した授業を実施する。	3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4		0%	2	権プログラムに基づき、教職員の人権感覚を養ってきた。さらに、人権教育に関わる年間指導計画を見直し、計画的な指導の充実を図る。			
的		他者の人権を尊重する人権教育の推進を 目指し、人権教育資料等を活用した授業を	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。	3		2: 1項 目	_	○体力調査を実施し、その結果を分析したがら、児童の実態として校内研究にも生だ			
		実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体	2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 4:全教員で行った。			以上 9 0%		すことができた。 〇縄跳び運動等や、松仙タイム等を通じ 運動の日常化を図ることができた。引き新	С	2	
る子		は 計画を作成し、計画に基づいた体育指導 や「一校一取組」運動や「一学級一実践」 運動を実践する。	3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。	4		1:		き、感染症対策を講じながら、運動の機会を設定し、心身の健康を推進する。 〇校長の経営方針をあらゆる機会を通じ			
供の		「進んで挨拶をする子」の育成に向けて、	1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。			0% 以上 なし		て教員、児童に周知した。全教員で挨拶は 励行について取組みを行うことができた。 今後は、学校での取り組みを地域と連携	D	0	
育 成		重点的・継続的に指導する。	2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	(する等、工夫を図る。			
	児童・生徒一 人び意を高 め、確か着さ かを定 ます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一 人ひとりの学習のつまずきや学習方法に	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。	3	目「学校は、学力の定 着・向上に努めてい る。」における「はい」 (A評価)の割合	4: 60% 以上	3	○学習カルテを作成し、例年通りの取組。 を継続している。学習カルテを活用し、自 己理解を深め、自主学習や授業への意念 につなげられるよう効果的な活用を考えて	А	6	●先生方は、児童一人一人をよく見て個性を重んじながら接 していると感じます。誰一人取り残さない姿勢を支持します。
プ		ついて、指導する。	1:60%未満であった。 4:学期に2~3回知らせた。					いきたい。 ○児童、保護者と算数の到達度について 共通理解を図ることができた。	_		●児童一人一人への細やかな対応が見られる。 ●保護者の評価から学力の定着が図られていると感じる。
ラシ		算数・数学到達度をステップ学習チェック シートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。	3		3: 5 0%		○学習指導講師やサポート松仙の協力だあり、算数の補習活動を実施した。(年6回	В	2	
2		学習補助員等による算数・数学・英語の補	1:お知らせできなかった。 4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。	- 3		以60% 法24 1% 上 50% 法1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	3	希望者)また、知識・理解が不足している 児童には、週1回程度の補習学習の機会 を設定し学力の定着を図った。今後、英語 活動の補習機会を設定していきたい。	В	2	
カ		習を実施する。	2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	3				○1学期は授業改善全体計画に基づき、 児童の実態を把握し、夏休みに授業改善 ブランを学年ごとに作成している。2学期が			
の向-		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。	4				フランを学年とこに作成している。2学期だらは児童の実態に応じた授業改善を意識し取組み、授業の充実と学力の向上を目指している。	С	0	
上		単元の月通しめ気時間の学習の目はめた	1:60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。					〇単元の見通しや学習活動の目標把握など、児童が理解しながら学習に取組むことができてきた。今後は、共通のめあてのよ			
		単元の見通しや毎時間の学習の具体的な めあてや授業の流れを子供に明示し、主 体的に学習に取り組む態度を育成する。	3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3				かでさせるだ。 ではは、大畑ののめとのかではなく、個別の学習課題設定も発達段階に応じて取り入れる。	D	0	
	とりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自由の生命	小中一貫による教育の視点に立った生活 指導の充実により、社会のルールや学校	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。	- 3	分は、自分のリーダー こなって学習や生活に 取り組むことができて いる。」の項目において 肯定的評価(A/B評価) の割合	8 3%	1 2 3	○小中一貫教育では、道徳教育を共通の柱として、他社理解と道徳的実践力の向上に向けた授業公開を3校で行っ			●豊かな心を育むための、児童の活動の見える化を意識していく。
			2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	- 3				た。連携校相互の実態に基づいた情報 共有を行うことができ、日々の指導の情 みを共有しながら意見交換を行った。 3	Α	4	●795名の児童から140件ものストレス症状を救い上げ、組織的に対応された点は素晴らしいと感じる。
プ		道徳教育推進教師を講師とした研修や、 国、都及び区の資料を活用した授業等を 行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。	3				統性を重視しながら、ICTを活用した授業実践の取り組みを推進する。 ○学校生活調査を活用した取組みを領			●小さなヒヤリハットを小さい内に、対応することが大きな事故を防ぐと考える。
ララン		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の	1:実施しなかった。 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。					学期実施した。ストレス症状に基づいて 児童との個別面談を行い、必要に応じ てスクールカウンセラーや他機関につ	В	4	●自分に自信がもてない子供達に支援してほしいと願っている。●明るく活発な学校生活を送っていると思う。子供達の元気が
3		結果よりストレス症状のみられる児童・生 徒に対して組織的に対応する。	3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4				げ連携を図っている。日頃から児童の 実態把握に努め、言動や行動等の変化を観察し、早期対応を行っていく。			●明る\活光は子校生活を送っていると思う。子供達の元素が 姿が見られる。
か		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめ の未然防止、早期発見等のための取組を	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。	4		2: 6 3%	3	○いじめはどの学級、どの児童にも起り得るものという認識のもち、週1回の生活指導夕会や常時開催のいじめ防止を			
心		実施する。	2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に	_		以上 7 3%		策委員会の場を活用し、情報共有、組 織的対応に努めた。今後も早期対応・ 早期解決を目指し、組織的対応の向上 を図っていく。	С	0	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・	対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 ご:必要な事条に対してのまり安藤を実施しなかつ	4		未満		○問題行動、不登校問題については、 関係機関と連携して対応してきた。今後			
	す。	生徒に関するケース会議等を実施する。	1: 必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。			1: 6 3% 未満		は必要に応じて、ケース会議を継続し、 支援が途切れないように申し送りやつ ながりの意識をもって取り組んでいく。			
						N/100			D	0	
プ			4:全教員で行った。		保護者向け	4:		○基本的な生活習慣と感染症拡大			●保護者との連携が必要であり、子供の良い生活習慣は家
ラン	スポーツに親	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を 通して、児童・生徒や保護者に対し、望まし い生活習慣についての意識啓発を行う。	2:60%以上の教員で行った。	4	学校は、体育指導・給 食指導・保健指導等	67% 以上		防止対策を関連付け、日常的な自身の健康について、児童の意識を高めていけるよう児童・保護者へ各種の	Α	7	庭との協働作業である点を保護者に理解・共感してもらえれば、もっとアンケート評価は伸びると思う。
4	しむ心の育 成や、運動習 慣の定着に	給食指導及び教科等における指導を通し	1:60%未満であった。 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。		で、健康教育・体力向 上に努めている」項目 こおいて、「はい」(A評 価)の回答の割合			知を中心に伝えてきた。今後も保護 者とその目的を共有し、取組みの充 実させる。			●保護者の評価から、健康増進を図る意識の向上をめざして いると感じる。●体力向上に対して、スポーツに親しむ土壌が養成されてい
体 増力	ほの足屑に よる体力の 向上など、生	て、食生活の充実・改善をねらいとした「食 育」を推進する。	2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4		以上 67% 未満	3	○給食指導と運動習慣の関連について児童へ指導を行い、児童の総合的な体力向上、健康教育推進を図るこ	В	1	●体力維持の向上等、将来(生涯)にわたって大変重要なこ
進の白		体育的行事、部活動、休み時間など様々 被機会を通して運動習慣の確立を推進す	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。	3		2: 47% 以上 57%		とができた。5年生では、総合的な学 習の時間に食をテーマに学習を行っ ている。子供たちの学びを他学年や	С	0	を指導されている。
		る。 校内研究を「友達と高め合う児童の育成」	1:60%未満であった。 4:全教員で行った。			未満 1: 47%		保護者に周知し、学びを広げている。 ○校内研究会は年間7回の研究授			
	ます。	とし、できた・見方・伝え方を重点に置いた 体育指導等を通し、児童が生涯にわたって 運動に親しむ素地を育成する。	3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3		未満		業を実施した。校内研究と感染症対 策を両立させ、体育指導の継続的な 充実を図ることができた。今後は、研 究の成果を他教科の指導に生かす。	D	0	
プ	児安学送教力質境す ・生な活の指と育り をではない指と育り がにをに導良環ま	授業公開日の授業評価を、その後の授業	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。	- 4		4: 5 9%		の年3回の学校公開を実施した。授 業評価を受けて、授業改善を図り、打 業力の向上を目指している。3回目			●児童の授業評価結果の見える化を意識し、取り組んでほしい。
ラン		改善に生かす。	2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	-1	い授業、楽しい授業を 受けている。」の項目に おいて「はい」(A評価)	以上		の学校公開では、全ての授業で授業 改善のポイントを書いた資料を配布 し、保護者との共有する機会を設け	Α	6	●毎学期の学校公開日では、各授業のねらいを明示されており、先生方の工夫が感じられ、好印象でした。
5		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、 主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を 実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。	4	の回答の割合	3: 4 9%		ている。 〇校内OJTは、主任教諭が主催した			●先生方への研修は、効果を持続させるため、定期的に取り 組んでいる。今後も継続できるようにしてほしい。
か カ			1:実施しなかった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。	+		以上 5 9%		「ミニ研修会」や若手教員が主催する 「わかめの会」による研修や、学習評価に関する検討会等、社会状況に則した内容を定期的に実施することが	В	2	●子供達から分かりやすく、楽しい授業と評価されていることは素晴らしいです。●児童は挨拶等を積極的に行っている。学校の指導が行き
る 教		各種研究発表会等の研究・研修の成果 を、自身の授業改善に生かす。	3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4		主法 2: 3	3	した内谷を定期的に実施りることができた。また、OJT担当教員がOJT推進だよりを発行し、学びの場や学んだことを教員全体で共有することがで			● 近里は疾が幸を模型的に行うている。 子校の指導が行され いている。
育環		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。	4		9% 以上 4 9%		きた。 〇研究発表会等における研修成果を	С	0	
境づく		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2: 字期1回以上行った。 1: 実施しなかった。			1: 3 9%		授業改善に生かすことが本年度もなかなか困難であった。次年度は、計 画的に取り組む。			
4						9% 未満		○校内委員会を月1回以上、定期開催し、特別支援教育を必要とする児童への校内支援体制の改善や、環	D	0	
プ		教育目標・学校経営方針・学校評価等の 基本情報、児童・生徒の活動情報等をホー	4: 週3回以上更新した。 3: 月に2~3回更新した。	+	保護者向け学校評価アンケート	4: 9		里への校内支援体制の改善や、環 ○学校HPを毎日更新し、児童の学習 と生活の様子を継続発信してきたこ とで、多くの保護者から感謝や継続			●学校ホームページの毎日更新は、いつも楽しく、安心して見ている。
ランな	学校・家庭・ 地域が担う 役割などを明 確にし、地域	ムページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	2: 学期2~3回以上更新した。 1: 更新しなかった。	4		以上 3: 8		とで、多くの保護者から感謝や継続 発信の願いが届いている。今後は、 まなびポケットの保護者配信機能の 活用も含め、さらに情報を発信してい	Α	6	●PTA、おやじの会とのコミュニケーションは良好であると感じている。
つ		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、	4: 毎回情報を提供した。 3: おおむね情報を提供した。 2: あまり情報を提供しなかった。	4				活用も含め、さらに情報を発信していけるよう務める。 〇地域教育連絡協議会は、年4回開			●以前のように、おやじの会主催イベントに青少対もお手伝いさせてもらい、交流を図りたい。
と校	に開かれた	適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地	1:情報を提供しなかった。 4:学期に2~3回行った。			2% 以上 9 2%		催した。学校公開日に行うことで、授業参観し、児童の姿や取組みの様子から成果や課題について意見交換す	В	2	●地域教育連絡協議会において、学校の情報と地域との共生が図られている。
に家 進庭	を目指しま す。また、相	学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4		2% ±:± 2: 7	3	ることができた。今後も継続して取り 組み、地域と共に学校の在り方を考 え、教育活動の充実や向上を図って			●もっと地域としてかかわることができると思う。アプローチの 仕方を考えていきたい。
め・ る地	互の連携を 深め、子ども	PTA並びにおやじの会等との連携を深め、 地域の教育力を生かした多様な体験活動	4:年間で3回以上行った。 3:年間で2回行った。	Δ.		2% 以上 8		いく。 OPTAとおやじの会とは、日常的に 打ち合わせを行い、感染の状況に応	С	0	
#4	ナ女アフム如	地域の教育力を生かしに多様な体験活動 を実践する。	2:年間で1回行った。 1:全く行わなかった。	-1		2% ±:= 1: 7		打ち合わせを行い、感染の状況に応じた取り組みについて相談を重ねてきた。PTA運営委員会をオンライン事施したり、おやじの会のイベントをeフ			
教域			ii	1		2%		ポーツや屋外実施にするなど工夫	1		
教域	す。					未満		し、体験活動の充実を図った。	D	0	
教育が一体	す。							し、体験活動の充実を図った。	D	0	